

「ぽっちゃり」と「でぶ」についてのイメージの比較¹⁾

垂澤 由美子・竹内 美紗稀²⁾・辻本 由衣³⁾

Comparative study of images related to “plump” and “fat” in Japan

TARESAWA Yumiko, TAKEUCHI Misaki and TSUJIMOTO Yui

Abstract : Ever since a fashion magazine for “plump women” was first published in March 2013, a “plump boom” has occurred in Japan. Although the word “plump” connotes the meaning of “little,” most models that appeared in this magazine are big built. This study explored images related to “plumpness” and “fatness” that are held by female university students in Japan. In Study 1, university students (N=38, all women) freely described the images they held of plumpness and fatness. We selected 35 items for each concept selected from images described by most students. In Study 2, 103 female university students indicated the extent to which they considered that the 70 selected items applied to their own images of plumpness and fatness. Factor analysis of the items regarding images of plumpness extracted four factors : “Sociable,” “Harmonious,” “Chubby,” and “Lacking-self-control” (cumulative contribution ratio = 56.13%), whereas, factor analysis of items about images of fatness extracted two factors : “Vulgar” and “Cheerful” (cumulative contribution ratio = 54.18%). In Study 3, verbal images were compared using several factors obtained in Study 2, and pictorial images were compared using nine pictures, in which the degree of fat on a woman’s body was progressively increased. Results of comparing verbal images indicated that plumpness, compared to fatness, was more Sociable, Harmonious, and Cheerful, and less Vulgar. In addition, plumpness was equated with Chubby and Lacking-self-control similar to fatness. Results of comparing pictorial images indicated that the degree of obesity associated with fatness was higher than for plumpness, whereas an ambiguous range of obesity was common to plumpness and fatness. Moreover, the range of fatness to be considered fat was wider than the range of fatness to be considered plump. The results of this study are discussed in relation to the current “plump boom” in Japan.

Key Words : plumpness, fatness, a plump boom, stereotype

問 題

食は生存のための欠かせない行為であるとともに、生きる上での喜びを与えてくれるものでもある。グローバル化の進んだ今日の先進国では、食に関する情報があふれ、多様な食材を手に入れることも、多様な料

理を思う存分楽しむこともできる。「今日明日の食糧が手に入らず、もう飢え死にになってしまうかもしれない」といったことはまったく考えられないような状況である。

このような飽食時代に問題となってくるのが肥満である。肥満とは、脂肪組織が過剰に蓄積した状態のことであり、身長あたりの体重指数 (BMI; Body mass

1) 本論文は、第2・第3著者が2013年度卒業研究としてまとめたものを基に作成された。また本研究の内容は、日本社会心理学会第55回大会で発表されている。

2) 株式会社ル・プランタン

3) 株式会社コバヤシ

index) を算出することによって判定され、日本では BMI 25 以上が肥満とされている (松澤・井上・池田・坂田・齋藤・佐藤・白井・大野・宮崎・徳永・深川・山之内・中村, 2000)。肥満が進むほど、糖尿病や動脈硬化性疾患などの疾病合併率も高くなり、肥満は死を招きかねない病ともいえる。ただし、厳密にいえば、肥満度のみでそれらの疾病の発症が決まるわけではなく、むしろ脂肪組織の蓄積がどこにあるのかの方が重要な因子なのだという (松澤ら, 2000)。つまり、肥満と判定された人の中にも健康体の人が存在する可能性があり、医学の分野では、肥満に起因する健康障害を有する肥満と、それを有しない肥満とを分類することが重要とされている (松澤ら, 2000)。

多くの肥満者が直面する問題は、なにも健康障害だけではない。欧米では、肥満者に対する偏見や差別が大きな社会問題になっている (e.g., Puhl & Heuer, 2009)。なかでも、雇用における体重差別は数多く報告されており (Puhl & Heuer, 2009)、肥満者が雇用差別を理由に訴訟を起こすケースも少なくないという (古郡, 2010)。その他、医師や看護師ですら、肥満患者に対して、怠惰でだらしなくて意志が弱いなどといった否定的な態度をもつ者が多い (Puhl & Heuer, 2009)。さらに、テレビや映画に登場する肥満者は、悪者として非難されていることも明らかにされている (Puhl & Heuer, 2009)。

一方、日本国内に目を向けてみると、欧米同様の偏見や差別の報告はあまり見当たらない。筆者らが見た限りでは、佐名・五十嵐 (2013, 2014) によって検討された大学生の抱く肥満者に対するイメージ (ステレオタイプ) に関する研究があるのみと思われた。日本では、肥満者に対する偏見や差別の問題は顕在化していないということなのだろうか。このことを考える上で、肥満に関する日本と欧米の違いを少し整理しておく必要がある。

肥満の判定については、先述したとおり日本では BMI 25 以上が肥満とされているが、欧米で用いられている WHO (世界保健機関) の基準では、BMI 30 以上が肥満である (松澤ら, 2000)。これは、日本では欧米よりも肥満者が少なく、また日本人は肥満度が低くても肥満に起因する合併症の有病率が欧米よりも高いことが背景にある (宮崎, 2011)。また、日本とアメリカの肥満者の割合を比較した古郡 (2012) によると、例えば 2009~2010 年において、BMI 25 以上の

日本男性は 30.4%、日本女性は 21.1% であるのに対し、BMI 25 以上のアメリカ男女は 68.8% といったように、日本とアメリカでは肥満者率に大きな開きがある。日本は先進国の中でも肥満者率の低い国であり、肥満者に対する差別が社会問題化していないのも、この肥満者率の低さが関係しているのだろう。

ただし、古郡 (2010) や宮崎 (2011) による厚生労働省の「国民健康・栄養調査」を用いた肥満者率の推移によると、男性では肥満者の割合が上昇してきている。先述したように、さまざまな食品が豊富に用意されている今日の食環境を背景にして、今後の肥満者率の推移はけっして楽観視できるものではないと思われる。

これまでの日本では肥満者に対する差別は社会問題化してはいないものの、肥満者に対する否定的なイメージはどうやら存在するようである。日本の大学生を対象に調査を行なった佐名・五十嵐 (2013) によれば、肥満者に対するイメージの中核は、生活習慣や食習慣にかかわる自己統制の欠如だということ。また、BMI を変化させた女性体型のシルエットを複数用いて印象を評価させたところ、BMI が高くなるほど「だらしない」と判断されていた (佐名・五十嵐, 2013; 2014)。

他方で、特に女性の間で根強い瘦身願望も (中嶋, 2014; 田仲・上長・則定・齋藤, 2013)、裏を返せば、肥満者にはなりたくないからこそその願望といえる。日本国内でも、肥満者に対する何らかの否定的なイメージが存在することは間違いない。

そんな中で「ぽっちゃりブーム」が起きている。このブームのきっかけを作ったのは、「la farfa (ラ・ファーファ)」(ぶんか社) という女性ファッション誌の創刊だといえる。それは、2013 年 3 月、日本初の「ぽっちゃり女子」向けのファッション誌として発刊された。当初は年 2 回刊の予定だったが、反響が大きく、同年 11 月から隔月刊になった。お笑いタレントとして人気の渡辺直美⁴⁾が、創刊号を始め何度もカバーガールを務めていることも話題にされている。同誌に登場するモデル達は「ぽっちゃり女子」とされ、掲載されている身長・体重・スリーサイズによると、体重 7, 80 kg, スリーサイズが 100 cm 前後といったような大柄な人たちが散見される。なお、「la farfa」のホームページの情報によると (株式会社ぶんか社, 2015)、2015 年 10 月現在、31 人のモデルがおり、彼

4) 1987 年 10 月 23 日生まれ。吉本興業に所属のお笑いタレント。

女たちの平均身長と平均体重を算出してみると、161 cm, 81 kg である。ちなみにこれらの平均値で BMI を算出してみると 31.2 であり、肥満の判定値の 25 を超えている。

2014 年の毎日新聞では(長尾, 2014), 「ぽっちゃりブーム」を受けて、「ぽっちゃり女子」についての特集記事が組まれた。それによると、いち早く「ぽっちゃり女子」市場に目を付けたのが通販大手のニッセン(京都市南区)で、2002 年に、L から 10 L (ウェスト 154 cm) サイズまでそろそろ通販カタログ「smiLe Land (スマイルランド)」を開始し、2009 年には兵庫県尼崎市に実店舗を設置。その後も実店舗の展開は進み、ニッセンのホームページによると、2015 年 10 月現在、関東に 10 店舗、関西に 3 店舗、東北に 1 店舗を構えるまでになっている(株式会社ニッセン, 2015)。

また、女性ファッション誌の「Can Cam」(小学館)といえ、20 歳前後を読者層とする代表的な雑誌の 1 つであるが、その「Can Cam」も太めの女の子を見過ごしてはいない。2013 年 7 月号では「この夏、『ぶに子』がかわいい理由」という文字が表紙を大きく飾った。「ぶに子」とは、「Can Cam」の造語で、触るとぶにぶにと柔らかそうなぽっちゃり体型の女性のことを指す(朝日新聞, 2013)。また、同年 6 月には、「全国ぶに子オーディション」をレコード会社や芸能事務所などをもつ avex と共同で開催し、「Chubbiness (チャビネス)」という 10 名のユニットをデビューさせた。chunbbiness とは、ぽっちゃりしていること、丸々と太っていることを意味している。ちなみに、「Chubbiness」の合言葉は「ぶに子が日本を HAPPY に」である。「Chubbiness」のホームページの情報に基づく、10 人の平均体重は 56 kg で、平均身長は 157 cm である(エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ株式会社, 2015)。これらの平均値で BMI を算出してみると、22.7 であり、肥満の判定値の 25 を超えてはいない。ちなみに、女性で疾病合併率が最も少ないのは BMI=21.9 で(松澤ら, 2000), 22.7 という数値はかなり健康的であるといえる。この数値によれば、「Chubbiness」は、これまでのアイドルなどよりは肉づきがいいという程度で、それほど丸々と太ってはいない、と言ってもいいだろう。

このように「ぽっちゃり女子」とか「ぶに子」という言葉が世間をにぎわしているが、「ぽっちゃり」とはどんな意味なのかをここで確認しておこう。「ぽっちゃり」は「ぼちゃぼちゃ」が語源とされ、その意味

は、「子供や年頃の女性の肉づきがよく、ふっくらとしていて愛らしいようす。(松村・山口・和田, 2005)」である。また、ここに示された語意の一部である「ふっくら」には「やわらかくふくらんでいるさま。(松村ら, 2005)」という意味が、「愛らしい」には「かわいらしく、可憐である。(松村ら, 2005)」という意味がある。さらに、「かわいい」には、「小さくて愛らしい。(松村ら, 2005)」という意味が、「可憐」には、「いじらしいこと。かわいらしいこと。(松村ら, 2005)」という意味がある。つまり、「ぽっちゃり」という言葉自体には、「肉づきがよい、ふっくら、愛らしい、やわらかくふくらんでいる、かわいらしい、可憐、小さい、いじらしい」といった意味があるといえる。この意味の中で、特に注目すべきものが「小さい」である。

先述したとおり、「la farfa」は同誌に登場するモデルたちを「ぽっちゃり女子」と呼んでいる。今見てきたように「ぽっちゃり」の意味を辿っていくと「小さい」という語にも行き着くが、「la farfa」のモデルにはかなり大柄な人も多いのである。

肉づきのよさを表わす従来からの日本語として「ぽっちゃり」の他に「でぶ」がある。「でぶ」とは、「太っているさま。また、そういう人。(松村ら, 2005)」である。「でぶ」という言葉は直接的な言い方で、人に向かって使うと失礼にあたるということはあるだろう。

しかし、そもそも「ぽっちゃり」と「でぶ」の違いを人々はどう認識しているのだろうか。本研究では、女子大生を対象にして、「ぽっちゃり」と「でぶ」のそれぞれについてどんなイメージをもっているかを明らかにすることが目的である。

研 究 1

目的

女子大生が「ぽっちゃり」と「でぶ」のそれぞれについてどんなイメージをもっているかを調べるために、自由記述式調査を行なう。

方法

調査期間 2013 年 9 月。

回答者 甲南女子大学生 38 名。

調査内容 「ぽっちゃり」と「でぶ」のそれぞれのイメージについて思い浮かんだものを用紙に記入してもらった。回答記入用のマス目は 6 つ用意しておき、

1つのイメージを1つのマス目に記入してもらうようにした。

結果と考察

「ぽっちゃり」のイメージでは総数 182 件, 「でぶ」のイメージでは総数 174 件の項目が得られた。

ちなみに先述したとおり, 「ぽっちゃり」という言葉自体には「肉づきがよい, ふっくら, 愛らしい, やわらかくふくらんでいる, かわいらしい, 可憐, 小さい, いじらしい」といった意味がある。

「ぽっちゃり」のイメージについて得られた代表的な回答は表 1 に示した。「かわいい」という回答が最も多かった。この「かわいい」は「ぽっちゃり」という言葉の意味にあるものである。「太っている」, 「ふくよか」, 「丸い」という回答の件数は多くはないが, これらも, 先述した「ぽっちゃり」という言葉の意味の中の「肉づきがよい」を違う言葉で表現したものと考えられ, 「ぽっちゃり」という言葉の意味にあるものといえる。

「優しい」という回答は, 2 番目に多かったが, これは「ぽっちゃり」という言葉の意味にはない。「やわらかい」については, 先述のとおり, 「ぽっちゃり」という言葉の意味を辿っていくと出てくるが, そこでの意味は, 態度や性格がやわらかいというよりも, 肉の付き方がやわらかくふくらんでいる感じ, というものである。したがって, 「やわらかい」というイメージの回答は, 何をもってやわらかいと回答したかは分からないため, 「ぽっちゃり」という言葉の意味にあ

るものかどうか判断できない。

一方, 「でぶ」のイメージについて得られた代表的な回答は表 2 に示した。「でぶ」とは「太っているさま。また, そういう人。」であった。この言葉の意味どおりの「太っている」という回答は 6 件あった。多かった回答は「よく食べる」, 「汗っかき」, 「くさい」, 「鈍い」であった。

以上の結果をまとめると, 「ぽっちゃり」のイメージは, 「かわいい」, 「優しい」, 「おおらか」など全体的に肯定的な回答が多かった。それに対して, 「でぶ」のイメージは, 「くさい」, 「鈍い」, 「暗い」など否定的な回答が目立った。

さらに, 各イメージの強さを鮮明にするために, 次のような得点処理も行なってみた。先述のとおり, 回答欄はそれぞれ 6 つ用意されていたが, 回答の順序が速いものほど先に頭に浮かんだものと考えられる。各回答者において, 初めに出た回答を 6 点, 2 つ目の回答を 5 点, 3 つ目の回答を 4 点, 4 つ目の回答を 3 点, 5 つ目の回答を 2 点, 6 つ目の回答を 1 点と点数を与えた。それから全回答者の得点を合算した。多くの人が回答した項目ほど, あるいは先に頭に浮かんだ項目ほど得点が高くなる。得点が高いものから 35 項目ずつ選び出したところ, 「ぽっちゃり」について表 3 に, 「でぶ」について表 4 のとおりになった。ちなみにここでは似ている回答をひとまとまりにするという作業も行なっている。例えば表 3 に示された「ぽっちゃり」の項目である「おおらかである」には「おだやか」, 「明るい」, 「おっとり」の回答も含めている。そのため「ぽっちゃり」(または「でぶ」)の代表的な回答の件数を示した表 1 (または表 2) と, 得点処理を示した表 3 (または表 4) とでは少し異なっていると

表 1 「ぽっちゃり」のイメージ

イメージ	件数
語意といえるもの	
かわいい	23
太っている	5
ふくよか	5
丸い	5
語意にはないもの*	
優しい	17
やわらかい	11
おおらか	8
穏やか	7
おっとり	7
明るい	7
よく食べる	6
笑顔	6
前向き	6
のんびり	5
ふんわり	5

*語意にあるかどうか判断できないものも含む。

表 2 「でぶ」のイメージ

イメージ	件数
語意といえるもの	
太っている	6
語意にはないもの	
よく食べる	13
汗っかき	12
くさい	10
鈍い	10
暗い	8
暑苦しい	8
後ろ向き	7
大きい	6
あぶら	5
汚い	5

表3 「ぽっちゃり」の回答項目の得点化

項目	得点
かわいい	112
優しい	73
おおらかである	62
やわらかい	54
太っている	51
マイペースである	35
ふわふわしている	30
明るい	24
よく食べる	23
癒し系である	22
丸い	22
体がぶにぶにしている	16
笑顔が素敵である	15
ポジティブである	14
色が白い	11
背が低い	10
おしゃれである	8
汗っかきである	7
家庭的である	6
いい加減である	6
自分にあまい	6
健康的である	5
性格がきつい	4
まわりを気遣える	4
人懐っこい	4
安心感がある	4
素直である	3
ぶさいくである	3
動ける	3
友達が多い	3
モテる	2
弱々しい	2
親しみやすい	2
巨乳である	1
楽しそうである	1

表4 「でぶ」の回答項目の得点化

項目	得点
食いしん坊である	62
汗っかきである	47
くさい	46
暗い	43
暑苦しい	43
体が大きい	40
ひねくれている	34
太っている	29
ネガティブである	25
動きが鈍い	24
短気である	19
清潔感がない	18
だらしない	15
おおらかである	14
意地が悪い	14
性格がきつい	12
不健康である	12
マイペースである	11
自分にあまい	9
色が黒い	9
せっかちである	8
なまけものである	8
がさつである	8
おしゃれに興味がない	7
どんくさい	7
息が荒い	6
すぐ疲れる	6
服のサイズがない	6
ひきこもりである	6
よく笑う	5
元気がない	4
明るい	4
上から目線である	4
からみづらい	3
いじめられていそうである	2

ころがある⁵⁾。

回答項目の得点化を行なった結果、上位を占めたものは、表1と表2でそれぞれ示した代表的な回答項目とは大きく変わらなかった。また「ぽっちゃり」と「でぶ」で共通する回答項目があることも分かった。それは、「おおらかである」(ぽっちゃりでは62点、でぶでは14点)、「太っている」(ぽっちゃりでは51点、でぶでは29点)、「マイペースである」(ぽっちゃりでは35点、でぶでは11点)、「明るい」(ぽっちゃりでは24点、でぶでは4点)、「汗っかきである」(ぽっちゃりでは7点、でぶでは47点)、「自分にあまい」(ぽっちゃりでは6点、でぶでは9点)、「性格がきつ

い」(ぽっちゃりでは4点、でぶでは12点)であり、他には「よく食べる」(ぽっちゃりでの23点)や「食いしん坊である」(でぶでの62点)といった「大食」に関する項目も同じように見られた。

一方、「ぽっちゃり」と「でぶ」で相対している回答項目もあった。それは「ぽっちゃり」での「色が白い(11点)」と「でぶ」での「色が黒い(9点)」、「ぽっちゃり」での「優しい(73点)」と「でぶ」での「意地が悪い(14点)」、「ぽっちゃり」での「健康的である(5点)」と「でぶ」での「不健康である(12点)」、「ぽっちゃり」での「明るい(24点)」と「でぶ」での「暗い(43点)」といったものである。この

5) その他、表3に示された「ぽっちゃり」の項目である「太っている」には「ふくよか」の回答も含まれている。「マイペースである」は表1の「のんびり」に、「ふわふわしている」は表1の「ふんわり」に、「笑顔が素敵である」は表1の「笑顔」に、「ポジティブである」は表1の「前向き」に対応している。表4に示された「でぶ」の項目については、「食いしん坊である」が表2の「よく食べる」に、「ネガティブである」が表2の「後ろ向き」に、「清潔感がない」が表2の「汚い」に対応している。

相対性は、「ぽっちゃり」に対する肯定性と「でぶ」に対する否定性として解釈できる。

なお、同じ「ぽっちゃり」または「でぶ」といった分類の中でも、相対する回答項目が確認された。それは「ぽっちゃり」での「かわいい (112 点)」と「ぶさいくである (3 点)」や、「でぶ」での「暗い (43 点)」と「明るい (4 点)」, 同じく「でぶ」での「マイペースである (11 点)」と「せっかちである (8 点)」といったものである。これは単に回答者が異なればイメージ項目も異なるということなのかもしれないが、同一の回答者から相対する項目が出てきた可能性も否めない⁶⁾。また本調査票に回答する際、特定の対象人物を思い浮かべてイメージ項目を回答していたとすれば、同一の対象人物から相対するイメージ項目が出てきたのか、それとも別の対象人物からそれぞれ異なるイメージ項目が出てきたのか、といったことも分からない。「ぽっちゃり」または「でぶ」のそれぞれの中で相対する回答項目が得られたという結果についての解釈は、本調査だけでは難しいといえる。

研 究 2

目的

研究 1 で収集された「ぽっちゃり」と「でぶ」のイメージのそれぞれについて、各項目が女子大生にどの程度共有されているのかを調べるため、またすべての項目をより少ない因子で説明できないかを探るため、量的調査を行なう。

方法

調査期間 2013 年 10 月。

回答者 甲南女子大学生 103 名。

調査内容 研究 1 で得られた「ぽっちゃり」と「でぶ」のイメージの自由記述式回答から 35 項目ずつを選び出して、それがどの程度そのイメージに当てはまると思うかを 4 段階で回答してもらった。段階尺度は「あまりそうは思わない」を 1, 「どちらかといえばそう思う」を 2, 「そう思う」を 3, 「非常にそう思う」を 4 とした。「ぽっちゃり」で用いた 35 項目は前掲の表 3 に、「でぶ」で用いた 35 項目は前掲の表 4 にあるとおりである。

結果

度数分布

図 1 には、「ぽっちゃり」イメージの各項目における各選択肢の度数を示した。

「体がぶにぶにしている」, 「丸い」, 「やわらかい」について、肯定した人（「非常にそう思う」, 「そう思う」, 「どちらかといえばそう思う」のいずれかを選択した人）は 96% 以上にのぼった。「よく食べる」, 「おおらかである」, 「笑顔が素敵である」, 「ふわふわしている」, 「太っている」については、同じく肯定した人は 90% を超えた。「癒し系である」, 「安心感がある」, 「背が低い」, 「親しみやすい」, 「マイペースである」, 「かわいい」, 「明るい」, 「優しい」, 「色が白い」, 「楽しそうである」については、肯定した人は 85% を超えた。

一方、「性格がきつい」について、「あまりそうは思わない」と否定した人は 74% を占めた。「弱々しい」, 「ぶさいくである」についても同じく否定した人は 61% を占め、「いい加減である」については 52% の人が否定した。「動ける」, 「おしゃれである」について否定した人は 4 割を超え、「健康的である」, 「モテる」について否定した人も 4 割近くいた。

全体的に見ると、否定した人が多かった上述の 8 項目以外の項目については、肯定する度合いに違いはあるものの 7 割以上の人が同意していることが示された。

図 2 には、「でぶ」イメージの各項目における各選択肢の度数を示した。

「太っている」, 「食いしん坊である」, 「汗っかきである」, 「体が大きい」について、肯定した人（「非常にそう思う」, 「そう思う」, 「どちらかといえばそう思う」のいずれかを選択した人）は 95% 以上にのぼった。「自分にあまい」, 「服のサイズがない」, 「動きがにぶい」, 「暑苦しい」, 「すぐ疲れる」, 「息が荒い」, 「不健康である」について、同じく肯定した人は約 9 割いた。「だらしない」, 「なまけものである」, 「マイペースである」について肯定した人は約 85% を占めた。

一方、「元気がない」と「色が黒い」について、「あまりそうは思わない」と否定した人は 6 割近くいた。「せっかちである」, 「上から目線である」について同じく否定した人は半数を超えていた。「短気である」, 「からみづらい」, 「性格がきつい」, 「ひねくれている

6) 卒論執筆後、回答票は破棄されており、今となってはこの可能性について確認できない。

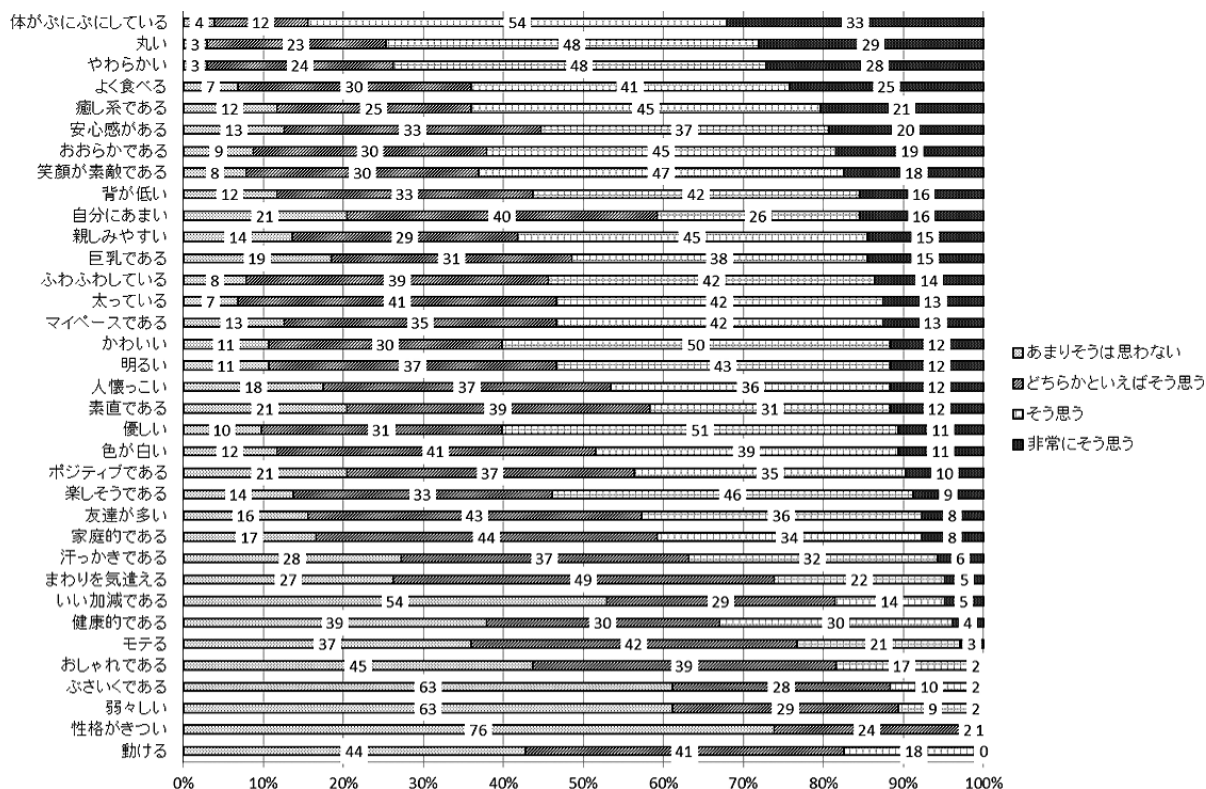


図1 「ぽっちゃり」イメージの各項目における回答分布
注) 図中の数値は度数を示す。

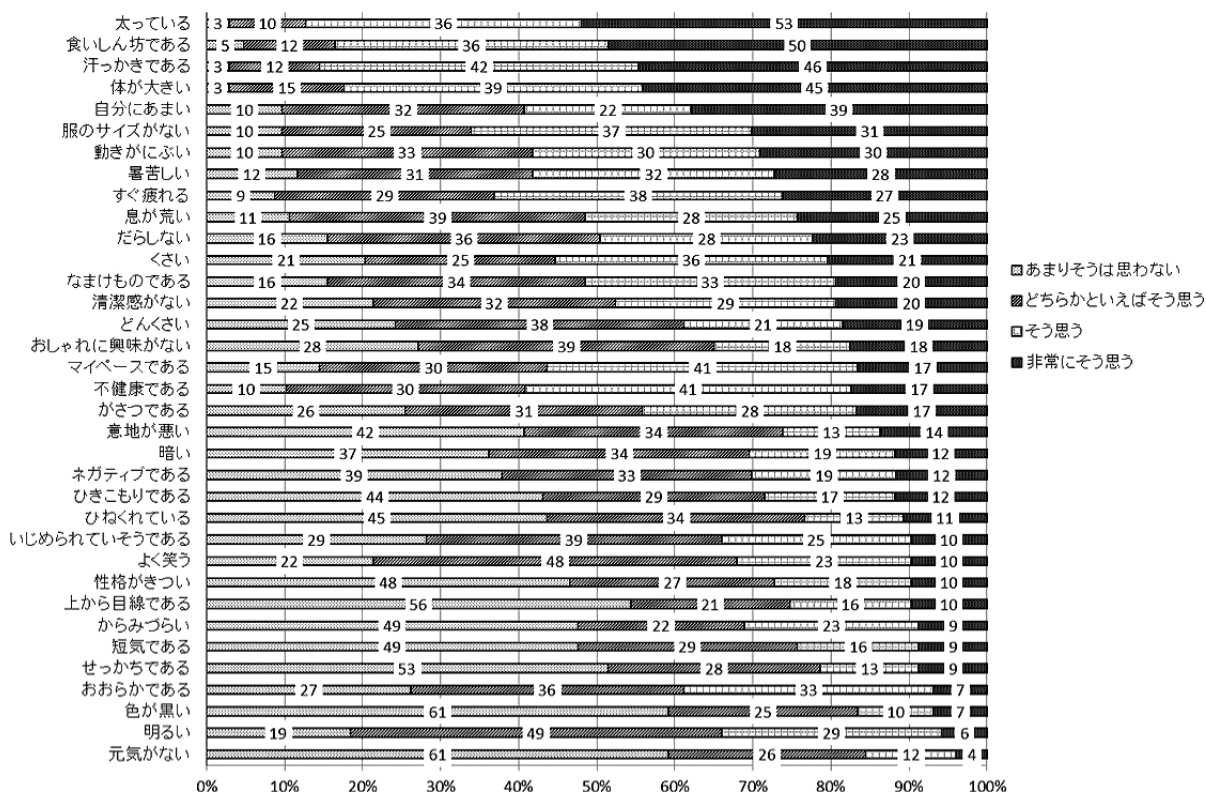


図2 「でぶ」イメージの各項目における回答分布
注) 図中の数値は度数を示す。

る, 「ひきこもりである」, 「意地が悪い」について否定した人は 4 割以上を占め, 「暗い」, 「ネガティブである」について否定した人も 4 割近くいた。

全体的に見ると, 否定した人が多かった上述の 12 項目以外の項目については, 肯定する度合いに違いはあるものの 7 割以上の人が同意していることが示された。

因子分析

まず「ぼっちゃり」イメージの各項目について, 回答の分布が正規分布に近似していないものがあるかを確認した。その結果, 「性格がきつい」, 「弱々しい」, 「ぶさいくである」, 「いい加減である」, 「おしゃれである」, 「動ける」, 「健康的である」の計 7 項目についてはいわゆる床効果が見られると判断した。この 7 項目を除いた計 28 項目について主因子法による因子分析を行なった。その結果, 固有値 1 以上の因子が 6 つ抽出されたが, 1 項目しか負荷していない因子が 2 つもあり解釈が難しいため, その 2 項目すなわち「モてる」と「色が白い」をさらに除いて計 26 項目で再度因子分析を行なった。その結果, 固有値 1 以上の因子が 5 つ抽出されたが, ここでも 1 項目しか負荷していない因子が 1 つあり解釈が難しいため, その項目すなわち「明るい」を除くことにした。また, 負荷量が .3 に満たない「背が低い」の項目も除くことにした。残った 24 項目について因子分析を行なったところ, 固有値 1 以上の因子が 4 つ抽出された。このときの累積寄与率は 56.13% であった。バリマックス回転後の因子負荷量は表 5 のとおりであり, 解釈も可能なため, この 4 因子解を採用することにした。

因子 I に負荷量の高い項目は, 「人懐っこい」, 「素直である」, 「楽しそうである」, 「親しみやすい」などであり, 人に好かれやすい性質や人づきあいがうまいことを表わしていると考えられるため, 『社交的』という因子名を付けた。因子 II に負荷量の高い項目は, 「優しい」, 「癒し系である」, 「ふわふわしている」などであり, 穏やかで安らぎを与えるようなことを表わしていると考えられるため, 『和やか』という因子名を付けた。因子 III に負荷量の高い項目は, 「体がぶにぶにしている」, 「丸い」, 「よく食べる」, 「太っている」であり, ふくよかな体型を表わしていると考えられるため, 『ふっくら』という因子名を付けた。因子 IV に負荷量の高い項目は, 「自分にあまい」, 「汗っかきである」であり, 自己統制がうまくできないことを表わしていると考えられるため, 『自制不能』という

表 5 「ぼっちゃり」項目のバリマックス回転後の因子負荷量

項目	因子 I	因子 II	因子 III	因子 IV	共通性
人懐っこい	.772	.177	.026	.191	.664
素直である	.769	.235	-.028	.123	.663
楽しそうである	.761	.347	.035	-.029	.702
親しみやすい	.740	.181	.191	-.045	.619
安心感がある	.728	.327	.032	.110	.649
友達が多い	.714	.241	-.148	.033	.591
まわりを気遣える	.703	.233	-.025	.003	.550
家庭的である	.681	.247	.001	-.014	.525
巨乳である	.475	-.106	.174	-.027	.268
ポジティブである	.419	.366	-.055	.033	.313
優しい	.223	.772	.053	.051	.650
癒し系である	.420	.709	.277	-.043	.757
ふわふわしている	.220	.679	.162	.097	.545
かわいい	.147	.656	.122	-.199	.507
笑顔が素敵である	.559	.648	.055	.063	.740
おおらかである	.225	.628	.077	.201	.492
マイペースである	.101	.490	.124	.235	.321
やわらかい	.215	.485	.409	.040	.450
体がぶにぶにしている	.111	.198	.910	.079	.886
丸い	.004	.200	.747	.298	.687
よく食べる	.071	.282	.532	.410	.536
太っている	-.199	.010	.516	.362	.437
自分にあまい	.037	.058	.190	.666	.485
汗っかきである	.104	.042	.204	.616	.433
固有値	5.499	4.109	2.423	1.441	
寄与率 (%)	22.913	17.122	10.094	6.004	
累積寄与率 (%)	22.913	40.035	50.129	56.133	

因子名を付けた。

次に, 「でぶ」イメージの各項目について, 回答の分布が正規分布に近似していないものがあるかを確認した。その結果, 「元気がない」, 「色が黒い」, 「せっかちである」, 「上から目線である」, 「短気である」, 「からみづらい」, 「性格がきつい」, 「ひねくれている」, 「ひきこもりである」, 「意地が悪い」, 「暗い」, 「ネガティブである」の計 12 項目についてはいわゆる床効果が見られると判断した。また, 「食いしん坊である」, 「汗っかきである」, 「体が大きい」, 「太っている」, 「自分にあまい」の計 5 項目についてはいわゆる天井効果が見られると判断した。これらの 17 項目を除いた 18 項目について主因子法による因子分析を行なった。その結果, 固有値 1 以上の因子が 2 つ抽出された。このときの累積寄与率は 54.18% であった。バリマックス回転後の因子負荷量は表 6 のとおりである。

因子 I に負荷量の高い項目は, 全 18 項目のうち 15 項目もあり, 「なまけものである」, 「がさつである」, 「息が荒い」, 「だらしない」, 「暑苦しい」など, 劣っていて品がないことを表わしているものと考えられた。そのため, 因子 I には『下品』という名前を付け

表6 「でぶ」項目のバリマックス回転後の因子負荷量

項目	因子 I	因子 II	共通性
なまけものである	.839	.091	.712
がさつである	.839	.154	.727
息が荒い	.838	.119	.717
だらしない	.824	.056	.683
暑苦しい	.804	.005	.646
くさい	.798	.076	.642
どんくさい	.771	.136	.612
清潔感がない	.765	.082	.591
おしゃれに興味がない	.728	.080	.536
すぐ疲れる	.724	.273	.599
動きがにぶい	.673	.058	.456
服のサイズがない	.645	.203	.457
いじめられていそうである	.643	.069	.419
マイペースである	.641	.388	.561
不健康である	.611	-.009	.373
よく笑う	.049	.834	.698
明るい	.176	.755	.601
おおらかである	.014	.513	.263
固有値	8.404	1.890	
寄与率 (%)	44.233	9.946	
累積寄与率 (%)	44.233	54.179	

た。因子IIに負荷量の高い項目は、「よく笑う」、「明るい」、「おおらかである」の3項目であり、性格がにぎやかで明るいことを表わしていると考えられるため、『陽気』という因子名を付けた。

考察

研究2では、自由記述式回答で得られた「ぼっちゃり」と「でぶ」のそれぞれのイメージの項目が、女子大生にどの程度共有されているかを調べることに、すべての項目をより少ない因子で説明できないかを探ることを目的とした量的調査を行なった。

各項目のイメージの強さということについていえば、調査対象者のほぼ全員に同意された項目があった。「ぼっちゃり」では、それは、「体がぶにぶにしている」、「丸い」、「やわらかい」であり、「でぶ」では、「食いしん坊である」、「太っている」、「汗っかきである」、「体が大きい」であった。「体がぶにぶにしている」や「丸い」は「ぼっちゃり」の語意にあり、「やわらかい」についても肉の付き方のことを指すのであれば、同じく語意にあるものである。一方、「太っている」は「でぶ」の語意にあり、「食いしん坊である」や「汗っかきである」は語意にはないが、太っている原因や結果として想像しやすいことからである。このように語意にあるもの、または語意から派生して想像しやすいものが、ほとんどの人に同意されたのは当然のことといえる。

逆の見方からすれば、語意から派生して想像しにくいものは、一部の人の中にはイメージとして存在していても、多くの人には同意されないのだろう。例えば、「ぼっちゃり」での「性格がきつい」や「いい加減である」、「でぶ」での「色が黒い」や「せっかちである」などはそれぞれの語意からかなり隔たりがあるものと思われるが、これらは約半数以上の人に否定されていた。

また、自由に思い付いたイメージを回答する研究1と、予め用意されたイメージの項目についてどの程度同意するかどうかを段階的に回答する研究2とでは、結果の傾向が異なることが確認された。

例えば、「ぼっちゃり」では、「かわいい」、「優しい」が自由記述式調査では回答件数が多かったが、量的調査においてはその2項目よりも「体がぶにぶにしている」や「丸い」、「やわらかい」の項目の方が同意する程度が高かった。つまり、「体がぶにぶにしている」や「丸い」というイメージは自分からは思い付かないが、人から言われて同意する人が多かったということである。この2項目は、先述のとおり「ぼっちゃり」の語意にあるといえるので、同意する人が多いのは納得できる。自由記述式回答で「かわいい」や「優しい」が多かったのは、女性を形容するときに思い付きやすい言葉であるからなのかもしれない。

一方、「でぶ」では、「暗い」、「ネガティブである（後ろ向き）」が自由記述式調査では回答件数が多かったが、量的調査においては否定した人が4割近くもいた。「暗い」や「ネガティブである（後ろ向き）」は限られた人だけに強く抱かれているイメージではないかと考えられる。この2項目の内容は「でぶ」の語意から隔たりがあるといえるので、否定した人が多いのは納得できるが、なぜ一部の人にはイメージとして抱かれているのだろうか。実生活で暗かったりネガティブだったりするでぶに会ったことがあったのだろうか。それとも映画や小説などでそのように描写されやすい傾向があるのだろうか。または今日の日本では「痩せていることは美しい」という価値観が浸透しているが（日本放送協会、2015）、その美的基準に反するのでは負のイメージが付随してしまったのだろうか。

「でぶ」の「暗い」についてはその反対語の「明るい」も用いられていたが、その回答傾向は「暗い」と完全に対照的なものではなかった。もし完全に対照的な結果であれば、「明るい」について同意する人は4割近くになるはずだが、「明るい」について同意した人は8割もいた。ただしこの回答をより詳しく見てみ

ると、5 割近くの人が「どちらかといえばそう思う」と回答していた。「どちらかといえば」という言葉の言い回しによって、明るいかどうかについて特段の考えをもっていなかった人もこの選択肢に同意しやすくなった可能性がある。人は一般的に、他者の長所を褒め、短所を控えめに評価する傾向があるといわれている。「でぶ」に対する「暗さ-明るさ」のイメージを検討する際には、この寛容傾向に影響されないよう調べ方を工夫しなければならない。

また、「ぽっちゃり」のイメージについて、取り上げた 30 数項目がより少ない因子で説明できないかを探ったところ、『社交的』、『和やか』、『ふっくら』、『自制不能』という 4 因子が得られた。前記したとおり、「ぽっちゃり」の意味するところは、「子供や年頃の女性の肉づきがよく、ふっくらとしていて愛らしいようす。」である。『ふっくら』因子は語意にあるものであり、『和やか』因子も「子供」や「愛らしい」という語から連想されやすいものではないかと考えられる。一方で、『社交的』因子は語意から連想しやすいものであるとは筆者らには思えない。近年の「ぽっちゃりブーム」の中で、渡辺直美や柳原加奈子⁷⁾などの女性芸人は「ぽっちゃり女子」として人気を博しているが、彼女たちこそ社交的な人物のイメージにぴったり一致すると思われる。本調査は「ぽっちゃりブーム」を背景にして行なわれたものではあるが、その影響の内容や大きさについてはまったく検討できていない。本調査で『社交的』因子が得られたのは、「ぽっちゃりブーム」をとおしてそのイメージが人々の間に浸透されたからなのか、それともこのブームが起こる前から人々に抱かれていたイメージであったのかは残念ながら分からないのである。他方、『自制不能』因子についても、「ぽっちゃり」の語意にあるものとは思えない。この因子に高く負荷していた項目は、「自分にあまい」と「汗っかきである」の 2 項目であったが、どちらも「ぽっちゃり」のイメージとして 7 割強の人が認めていた。ちなみに「でぶ」のイメージとしても同一項目が挙げられており、どちらも 9 割以上の人が認めていた。佐名・五十嵐 (2013) によれば、日本の大学生は、肥満者に対して生活習慣や食習慣にかかわる自己コントロールが欠如しているというイメージを抱きやすく、それが肥満者に対するステレオタイプの核になっているという。「大食や運動不足の結果、肥満になる」といった因果関係は、多くの人にとって

容易に思い付きやすいことなのだと考えられる。

一方、「でぶ」のイメージについて、取り上げた 30 数項目がより少ない因子で説明できないかを探ったところ、『下品』と『陽気』の 2 因子が得られた。前記したとおり、「でぶ」とは「太っているさま。また、そういう人。」という意味である。『下品』因子も『陽気』因子も、「でぶ」の語意にはないものと考えられる。

『下品』因子は、先述した「生活習慣や食習慣における自制心の欠如」というイメージと大きく関係していると思われる。つまり、自分の欲望を抑えられず食事を大量にとる一方で体を動かすことをしないというイメージである。「なまけものである」や「だらしない」という項目は、自制心の欠如を表わすものと思われる。その他、『下品』因子は、肥満体型から連想されることにも関係していると思われる。「服のサイズがない」をはじめ、「すぐ疲れる」や「息が荒い」といった項目は、肥満体型に大きく関係しているイメージではないかと考えられる。

他方、『陽気』因子についてであるが、これは先述した「暗い-明るい」の対立的なイメージの混在と関係することである。「暗い」という項目は床効果が見られると判断したため因子分析には含めなかった。一方「明るい」については、その項目の要素と似ている項目が他にもあったため『陽気』因子が抽出されたのである。「でぶ」への明るさや大らかさに関するイメージはやはり存在するのだろう。明るさ・大らかさの評価ではないが、あたたかさの評価と肥満度との関係性については既に報告されている。佐名・五十嵐 (2013) は、女性の体型の肥満度を段階的に変化させて、それぞれのシルエットに対する印象を、日本の大学生を対象者として調べた。その結果、肥満度が高くなるほど、「あたたかい」と評価されていた。あたたかさは思いやりがあって快いことを指すように、明るさや大らかさとは意味が異なるが、本研究の『陽気』因子の項目である「おおらかである」について研究 1 での自由記述式回答の分類を確認してみると、「おおらかである」は「おだやか」や「やさしい」との項目と同じ仲間分類されており、「おおらかである」がその仲間を代表するものとして整理していた。これより、佐名・五十嵐 (2013) でのあたたかさとは、本研究の『陽気』因子には共通性もあると思われる。

また本研究では、『下品』と『陽気』の 2 因子が得

7) 1986 年 2 月 3 日生まれ。太田プロダクションに所属のお笑いタレント。

られ、これを一言でいえば「でぶは下品だけど陽気だ」になる。さげすむ一方で褒めるという相反する見方が同時に存在しているといえる。Fisk & Taylor (2008) によれば、ある面では高く評価され、別の面では低く評価されるという両面価値性は、黒人やユダヤ人、障害者や老人などへのステレオタイプに見られる一般原則で、このような微妙なステレオタイプ化が生じる背景には、ステレオタイプ化しようとする衝動とステレオタイプへの個人的または社会的制裁との間で生じる内的な葛藤があるという。これより、日本の女子大生は「でぶ」に対して露骨な偏見を示さないものの、軽蔑の念は心の中で長く抱き続けるのではないかと予想される。

「でぶ」イメージの項目の因子分析においては、床効果が見られると判断した12項目と、天井効果が見られると判断した5項目の計17項目を用いなかった。この項目数は多いため、もしこれらが正規分布に近似しており因子分析で用いることができたならば、『下品』と『陽気』以外の因子、またはこの2因子よりも詳しいことがらを意味する因子がいくつか抽出された可能性がある。床効果が見られると判断した項目の中には、「暗い」や「ネガティブである」といった研究1の自由記述式回答では件数の多かったものもあった。先述したように、「でぶ」に対しては一部の人に強く抱かれているイメージがあるということも考えられるが、実態はどうか詳しく調べる意義はあると思われる。

本研究での因子解の結果は、「ぽっちゃり」では4因子解、「でぶ」で2因子解であった。この結果は、それぞれのイメージの複雑さの程度を表わしているとも考えられるが、因子分析に用いた項目数は「ぽっちゃり」では24、「でぶ」では17、というように異なっているため、その考えは速断といえるだろう。本研究は第2・第3著者の卒論研究で調査期間が限られており、調査票の項目数も限定する必要があった。イメージの複雑さについて議論するには、項目数に縛られないかたちで調査を行なうべきだろう。

研 究 3

目的

研究1と研究2では、「ぽっちゃり」と「でぶ」というそれぞれの言葉から想像される言語的イメージの項目やそれぞれのイメージ因子が示された。このイメージ因子を構成するいくつかの項目を用いて、研究3

では、「ぽっちゃり」と「でぶ」それぞれのイメージの相違を明らかにするための直接比較を行なう。

また近年の「ぽっちゃりブーム」の中で「ぽっちゃり女子」としてマスコミや雑誌に登場する人たちの中には、かなり大柄な人もいる。「ぽっちゃり」と「でぶ」の体型を区分けする境界線らしからぬものは存在するのだろうか。岩脇(1999)に掲載されていた Fallon & Rozin (1985)の女性の肉づきを段階的に変化させた9つの画像を用いて、「ぽっちゃり」と「でぶ」の画像的イメージの比較も行なう。

方法

実施期間 2013年12月。

実験参加者 甲南女子大学生59名。「ぽっちゃり」条件には28名、「でぶ」条件には31名が無作為に割り当てられた。

実験内容 調査票を用いて、「ぽっちゃり」または「でぶ」のいずれか指定した方のイメージについて回答してもらった。

言語的イメージの項目については、研究2をもとに設定した。「ぽっちゃり」イメージでは4因子が得られたが、各因子の因子負荷量が高い2項目ずつを選んだ。具体的には、『社交的』因子から「人懐っこい」と「素直」、『和やか』因子から「優しい」と「癒し系」、『ふっくら』因子から「体がぶにぶにしている」と「丸い」、『自制不能』因子から「自分に甘い」と「汗っかき」の項目を選んだ。「でぶ」イメージでは『下品』と『陽気』の2因子が得られ、前者の因子については負荷量の高い7項目を、後者の因子については1項目を選んだ。具体的には、「なまけもの」、「がさつ」、「息が荒い」、「だらしない」、「暑苦しい」、「くさい」、「どんくさい」、「明るい」であった。これらの計16項目のそれぞれが、「ぽっちゃり」または「でぶ」のいずれか指定された方のイメージにどのくらいあてはまると思うかを6段階で回答させた。ちなみに、各段階は、「まったくそうは思わない」を1、「あまりそうは思わない」を2、「どちらともいえない」を3、「どちらかといえばそう思う」を4、「そう思う」を5、「非常にそう思う」を6と設定した。

画像的イメージについては、先述のとおり、岩脇(1999)に掲載されていた Fallon & Rozin (1985)の身体像を用いた。それは図3に示したとおりである。「ぽっちゃり」または「でぶ」のいずれか指定された方の体型にあてはまると思うものすべての番号に○印を付けさせた。

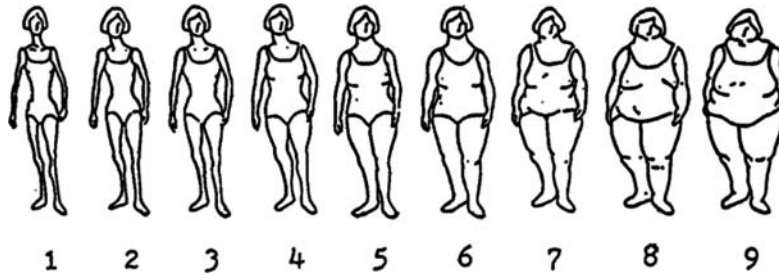


図3 女性の肉づきを9段階に変化させた身体像(岩脇, 1999より)

結果

言語的イメージの比較

「ぽっちゃり」または「でぶ」のイメージに当てはまると思う程度を回答した計16項目について、研究2で得られた因子に従って集計することにした。つまり、「ぽっちゃり」イメージでは、「素直」と「人懐っこい」を『社会的』因子、「優しい」と「癒し系」を『和やか』因子、「体がぶにぶにしている」と「丸い」を『ふっくら』因子、「自分に甘い」と「汗っかきである」を『自制不能』因子の尺度得点として算出するために、それぞれ単純加算平均した。なお、クロンバックの α 係数を算出したところ、『社会的』では $\alpha = .805$ 、『和やか』では $\alpha = .875$ 、『ふっくら』では $\alpha = .752$ 、『自制不能』では $\alpha = .531$ だった。「でぶ」イメージでは、「なまけもの」、「がさつ」、「息が荒い」、「だらしない」、「暑苦しい」、「くさい」、「どんくさい」の7項目を『下品』因子の尺度得点として算出するために、各項目を単純加算平均した。なお、クロンバックの α 係数は、 $\alpha = .809$ であった。「明るい」については『陽気』因子の項目として用いた。

「ぽっちゃり」の4つのイメージ因子の尺度得点と、「でぶ」の2つのイメージ因子の尺度得点とが、「ぽっちゃり」条件と「でぶ」条件で違いが見られるかを調べるために、1要因分散分析を行なった。図4には各条件における6つの尺度得点を示した。

「ぽっちゃり」イメージの『社会的』因子については、「ぽっちゃり」の方が「でぶ」よりもイメージに当てはまると回答される傾向にあった [$F(1,58) = 3.733, p < .10$]。『和やか』因子についても、「ぽっちゃり」の方が「でぶ」よりもイメージに当てはまると回答される傾向にあった [$F(1,58) = 2.824, p < .10$]。しかし、『ふっくら』因子と『自制不能』因子については、「ぽっちゃり」と「でぶ」とで当てはまると思う程度に違いは認められなかった [それぞれ、 $F(1,58) = .000, ns$; $F(1,58) = 1.173, ns$]。

「でぶ」イメージの『下品』因子については、「で

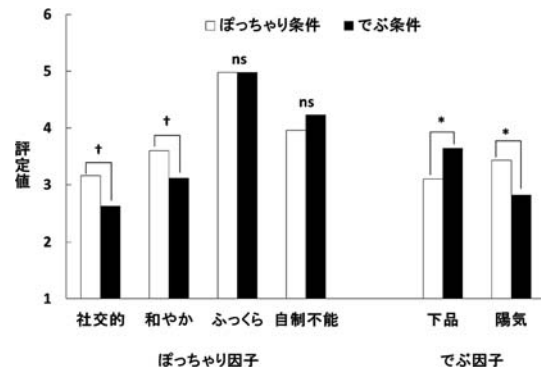


図4 各条件における言語的イメージの尺度得点
* $p < .05$, † $p < .10$

ぶ」の方が「ぽっちゃり」よりもイメージに当てはまると回答されていた [$F(1,58) = 7.673, p < .05$]。しかし、『陽気』因子については、2条件で差がないどころか、「ぽっちゃり」の方が「でぶ」よりもイメージに当てはまると回答されていた [$F(1,56) = 3.636, p < .05$]。

「ぽっちゃり」と「でぶ」の条件で差が認められなかった『ふっくら』因子と『自制不能』因子について、両条件とも評定値が高いことから、どちらの条件でもそのイメージが強いと思われるのではないかと考えられる。6段階評定のうちの「どちらともいえない」の「3」よりも平均評定値が有意に異なるかを調べるために、6つのすべての尺度得点について条件ごとに t 検定を行なった。その結果、「ぽっちゃり」条件で「どちらともいえない」の「3」よりも有意に評定値が異なったものは、『和やか』と『ふっくら』と『自制不能』であった [それぞれ、 $t(27) = 2.738, p < .05$; $t(27) = 13.737, p < .05$; $t(27) = 6.255, p < .05$]。つまり、『和やか』も『ふっくら』も『自制不能』も「どちらともいえない」よりは、ぽっちゃりのイメージに当てはまると肯定する方向に有意に傾いていたといえる。「でぶ」条件で「どちらともいえない」の「3」よりも有意に評定値が異なったものは、『ふっくら』と『自制不能』と『下品』であった [それぞれ、

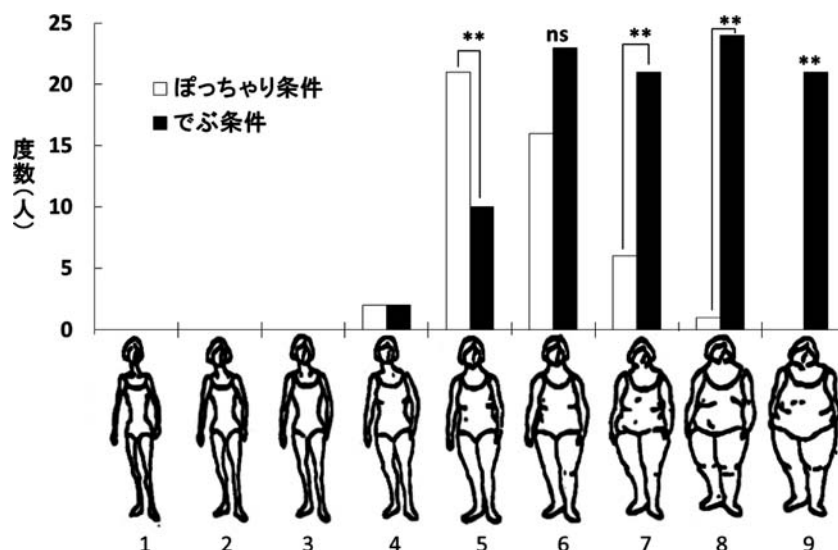


図5 各条件における画像的イメージの同意者数
** $p < .01$

$t(30) = 15.012, p < .05$; $t(30) = 6.723, p < .05$; $t(30) = 4.239, p < .05$ 。つまり、『ふっくら』も『自制不能』も『下品』も「どちらともいえない」よりは、でぶのイメージに当てはまると肯定する方向に有意に傾いていたといえる。これらより、『ふっくら』と『自制不能』の各因子で、「ぽっちゃり」条件と「でぶ」条件とで差が認められなかったのは、「ぽっちゃり」でも「でぶ」でも『ふっくら』や『自制不能』のイメージが同じぐらいあるからだといえる。

画像的イメージの比較

9つの身体像について、「ぽっちゃり」または「でぶ」の各条件で当てはまると回答した人数の割合に違いがあるかを調べるために、 χ^2 検定を行なった。図5には、各条件で当てはまると回答した人数を示した。

「体型1」から「体型3」までは、どちらの条件でも「当てはまる」と回答した人はいなかった。「体型4」を「当てはまる」と回答した人は、「ぽっちゃり」条件では2名、「でぶ」条件では2名おり、人数の偏りは有意ではなかった [$\chi^2(1) = 0.011, ns$]。「体型5」を「当てはまる」と回答した人の割合は、「ぽっちゃり」条件では21名、「でぶ」条件では10名であり、この人数の偏りは有意であった [$\chi^2(1) = 10.779, p < .01$]。「体型6」を「当てはまる」と回答した人は、「でぶ」条件では23名、「ぽっちゃり」条件では16名いたが、人数の偏りは有意ではなかった [$\chi^2(1) = 1.909, ns$]。「体型7」を「当てはまる」と回答した人は、「でぶ」条件では21名、「ぽっちゃり」条件では6名であり、この人数の偏りは有意であった [$\chi^2(1) = 12.714, p$

$< .01$]。「体型8」を「当てはまる」と回答した人は、「でぶ」条件では24名、「ぽっちゃり」条件では1名であり、この人数の偏りは有意であった [$\chi^2(1) = 32.857, p < .01$]。「体型9」を「当てはまる」と回答した人は、「でぶ」条件では21名、「ぽっちゃり」条件では0名であり、この人数の偏りは有意であった [$\chi^2(1) = 29.450, p < .01$]。これらの結果をまとめると、ぽっちゃり体型は番号5の身体像で、でぶ体型は番号7から番号9までの身体像であり、どちらにも当てはまるのは番号6の身体像ということになる。

考察

研究3では「ぽっちゃり」と「でぶ」の言語的イメージと画像的イメージの直接比較を行なった。そして次のような結果が得られた。

「ぽっちゃり」や「でぶ」といった言葉から想像される言語的イメージの結果から、「ぽっちゃり」は「でぶ」よりも、「社会的で和やかで陽気で下品でない」と回答されていたことが分かった。しかし、「ふっくら」と「自制不能」の因子については、「ぽっちゃり」と「でぶ」への評価の違いは認められず、両条件とも体型はふくよかで自制心はあまりないと思われていることが分かった。

画像的イメージの結果からは、「でぶ」の方が「ぽっちゃり」よりも肥満度は高く、どちらにも当てはまるとされる曖昧な領域のあることも分かった。また、「ぽっちゃり」といえるのは番号5の身体像、「でぶ」といえるのは番号7～番号9までの身体像で、それぞれの体型の範囲の広さを比較すると、「でぶ」の方が

「ぽっちゃり」よりも広がった。

これらの結果について、以下解釈をしていきたい。まず、言語的イメージの結果についてだが、「ぽっちゃり」の方が「でぶ」よりも「社会的で和やかで陽気で下品でない」というように全体的にイメージが良かった。『陽気』因子は、「でぶ」のイメージから抽出されたものであったが、「ぽっちゃり」の方が「でぶ」よりも有意にイメージに当てはまると回答されていた。本研究の画像的イメージの結果とも併せて考えてみると、身体像の肥満度と陽気さ評価との関係性は、肥満度が高くなるほど『陽気』ではないと評価されるという負の直線的関係か、ぽっちゃり体型で陽気さの評価が高くなる逆 U 字型関係、または、ぽっちゃり体型とやせ体型では陽気さの評価は変わらないがでぶ体型だと陽気さの評価は低くなるという関係にあるのではないかと予想される。研究 2 の考察のところで、本研究の『陽気』因子は、佐名・五十嵐 (2013) での「あたたかさ」と共通性もあると思われると述べた。しかし、佐名・五十嵐 (2013) では肥満度が高くなるほどあたたかいと評価されており、その関係性は線形モデルに適合していた。佐名・五十嵐 (2013) が刺激として用いたシルエットは BMI が 10~40 までの 7 画像で、やせ体型からでぶ体型までを含んでいる。本研究の『陽気』因子と、佐名・五十嵐 (2013) での「あたたかさ」に共通性があるのなら、肥満度とその印象評価との関係性は一致してもいいだろうが、そうはならなかった。『陽気』と「あたたかさ」の違いが異なった結果に関係しているのか、それともシルエットに対する印象評価と、「ぽっちゃり」または「でぶ」という言葉に対する印象評価との差異が異なった結果に関係しているのか、あるいはそれらとは別の可能性によるのかは、さらに調べてみないと分からないことである。

また、『ふっくら』と『自制不能』因子は「ぽっちゃり」のイメージから得られたものであるが、「でぶ」でも「ぽっちゃり」と同じ程度に、ふくよかな体型で自制心があまりないと思われていた。研究 2 の考察で述べたように、「でぶ」の『下品』因子の中には、『ふっくら』に通じる肥満体型に関する項目や、『自制不能』につながる自制心のなさを示す項目が含まれていた。つまり、「でぶ」もふくよかな体型で自制心がなくと思われていたという結果は納得できるものである。このように、言語的イメージでは、ふくよかな体型の認識に、「でぶ」と「ぽっちゃり」とで差はなかったが、画像的イメージの結果によれば、肥満度は

「でぶ」の方が「ぽっちゃり」よりも高かった。『ふっくら』因子について今回用いた項目は「体がぶにぶにしている」と「丸い」であったが、肥満体型を表わす項目内容によっては、より「ぽっちゃり」らしいものと、より「でぶ」らしいものがあり、印象評価で両者の差異が出るものもあるのではないと思われる。

画像的イメージの結果について見てみると、「でぶ」は「ぽっちゃり」よりも肥満度が高く、また「でぶ」とされる体型の範囲は「ぽっちゃり」とされる体型の範囲よりも広く、さらに、「でぶ」と「ぽっちゃり」のどちらともつかない体型もある、ということが示された。岩脇 (1999) によれば、9 つの身体像を用いた当時の女子大生による「現在の体型」の自己評定の平均値は 4.0 であった。昔よりも「やせ志向」は強くなってきており (日本放送協会, 2015)、今日同様の調査を行えば、もしかすると平均値はもう少し小さくなり、やせ体型の方へ移るかもしれない。いずれにしても、今回の結果から、「ぽっちゃり」とは、「平均的体型よりも少し肉づきがいい程度である」というのが一般的なイメージなのではないかと考えられる。それに対して「でぶ」は「肉づきのかなりいい人たちで、ある一定の体型を超えた人すべて」というイメージなのではないかと考えられる。

そして「ぽっちゃり」と「でぶ」の区分けの判断が曖昧になる体型もあったが、今日の「ぽっちゃりブーム」はこの曖昧さを利用していると思われる。これまで見てきたとおり、「ぽっちゃり」という言葉から連想されるイメージは「社会的で和やか」など、「でぶ」という言葉から連想されるイメージよりも格段にいい。体の大きな女性向けの洋服やファッション雑誌などを販売するのに、「でぶ」向けという言葉を使うより「ぽっちゃり」向けという言葉を使った方が、可愛らしさが想像されて、売上もより期待できるのではないかと予想される。ぽっちゃり女子向けのファッション雑誌「la farfa」を見てみると、モデルたちは本研究で「ぽっちゃり」とされた身体像 5 に該当する人たちばかりではない。本研究で「でぶ」とされた身体像 7, 8, 9 に該当するようなモデルも見受けられるのである。「la farfa」は「ぽっちゃり女子」向けの雑誌としているが、実は「ぽっちゃり」だけでなく「でぶ」も読者層として想定しているのだろう。本研究で「でぶ」のイメージとして「服のサイズがない」とか「おしゃれに興味がない」といった項目が出てきたが、「ぽっちゃりブーム」の火付け役といえる「la farfa」は、「でぶ」のそのイメージに真っ向から対立して打

ち消そうとするのではなく、「でぶ」を「ぽっちゃり」という言葉にすり替えながら、かなり太った人でも服のサイズはあるし、おしゃれも楽しめるというメッセージを送っているものと思われる。「ぽっちゃりブーム」は産業界側の市場開拓と利益追求が発端で生じたものと考えられるが、消費者側からすれば、そのブームによっておしゃれや毎日が楽しくなり、救われたというような人も存在するのだろう。

今後の課題

本研究では、「ぽっちゃり」と「でぶ」の言語的イメージと画像的イメージの比較を行なった。「ぽっちゃり」と「でぶ」という言葉から浮かぶそれぞれの言語的イメージには共通性もあったが、相違性もあり、「ぽっちゃり」の方が「でぶ」よりも良いイメージをもたれていた。また、画像的イメージについては、どちらにも当てはまるとされる体型もあったが、「でぶ」の方が「ぽっちゃり」よりも肥満度が高かった。

本研究の3度のデータ収集結果をとおして少し不明に感じた点は、肥満度と明るさ・暗さ評価との関係性である。自由記述式調査(研究1)においては、「でぶ」に対して「暗い」や「ネガティブである(後ろ向き)」といったイメージの回答件数が多かったが、量的調査(研究2)においては否定した人が4割近くもいた。一方、「でぶ」のイメージ項目の因子分析においては、明るさ評価に関係する『陽気』因子が抽出され、この因子を用いて、「でぶ」と「ぽっちゃり」のイメージを比較したところ、「ぽっちゃり」の方が「でぶ」よりも陽気と思われていた。「でぶ」に対しては明るさと暗さのイメージが混在していそうであるが、その実状や、肥満度の高低によって両イメージのそれぞれも変わるのか、といったことは、今後の研究課題として挙げられる。

また本研究では、言語的イメージと画像的イメージを別々に検討していたが、今後は、体型画像と言語情報が同時に提示されたときの印象評価を調べていくべきだろう。例えば、体型画像は同じであっても「でぶ」または「ぽっちゃり」というラベルの違いだけで印象は変わるのだろうか。また、体型画像は「でぶ」の範疇にあっても「ぽっちゃり」のイメージである「社交的」または「和やか」といった人物情報の提供は、印象評価をどのぐらい左右するのだろうか。これらのことは「ぽっちゃりブーム」がもたらした影響の解明にもつながり、現実的な課題といえるだろう。

引用文献

- 朝日新聞(2013)コトバンク 知恵蔵 mini 2013年6月24日〈<https://kotobank.jp/word/%E3%81%B7%E3%81%AB%E5%AD%90-191038>〉(2015年10月29日)
- エイベックス・ミュージック・クリエイティブ株式会社(2015)Chubbiness Profile〈<http://avex.jp/chubbiness/profile.php>〉(2015年10月29日)
- Fisk, S. T. & Taylor, S. E. (2008) *Social cognition: From brains to culture*. 3rd ed. McGraw-Hill. (フィスク S. T.・テイラー S. E. 宮本聡介・唐沢 穰・小林知博・原奈津子(訳)(2013)社会的認知研究-脳から文化まで第3版 北大路書房)
- 古郡頼子(2010)肥満の経済学 角川学芸出版
- 古郡頼子(2012)肥満が雇用・賃金・生産性に与える影響と体重差別 大原社会問題研究所雑誌, 647・648, 48-58.
- 岩脇三良(1999)女子学生における身体像と自尊感情 昭和女子大学女性文化研究所紀要, 23, 1-16.
- 株式会社ぶんか社(2015)la farfa(ラ・ファーファ)花咲け✿ぽっちゃかわ女子! モデル紹介〈<http://lafarfa.jp/pip/102501/index.html>〉(2015年10月29日)
- 株式会社ニッセン(2015)スマイルランドSHOP 最新情報ページ〈<http://www.nissen.co.jp/cate007/omise/list/>〉(2015年10月29日)
- 松村 明・山口明穂・和田利政(2005)国語辞典 第10版 旺文社
- 松澤佑次・井上修二・池田義雄・坂田利家・齋藤 康・佐藤祐造・白井厚治・大野 誠・宮崎 滋・徳永勝人・深川光司・山之内国男・中村 正(2000)新しい肥満の判定と肥満症の判断基準 肥満研究, 6, 18-28.
- 宮崎 滋(2011)肥満と肥満症 日本内科学会雑誌, 100, 897-902.
- 長尾真希子(2014)現代女子論:第12講 ぽっちゃり 毎日新聞 2月28日夕刊
- 中嶋加代子(2014)女子短大生のダイエットに関する実態および意識調査 別府大学短期大学部紀要, 33, 1-9.
- 日本放送協会(2015)ニッポンの女性は“やせすぎ”!?~“健康で美しい”そのコッは~ クローズアップ現代 2015年10月5日放送
- Puhl, R. M. & Heuer, C. A. (2009) The stigma of obesity: A review and update. *Obesity*, 17, 941-964.
- 佐名龍太・五十嵐 祐(2013)肥満者に対するステレオタイプと体型情報による印象の変化 日本社会心理学会第54回大会発表論文集, p.12.
- 佐名龍太・五十嵐 祐(2014)体型情報の変化が対人印象評定に及ぼす影響 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要, 61, 47-56.
- 田仲由佳・上長 然・則定百合子・齋藤誠一(2013)青年期女性の体型認識に影響を及ぼす要因:瘦身者の検討 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 6, 57-61.